

## 大阪府立四條畷高等学校 平成 30 年度 第 3 回学校運営協議会 議事録

### 【1】日時

- ・平成 31 年 2 月 19 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時

### 【2】会場

- ・本校大会議室（東館 2 階）

### 【3】出席者

- ・委員：田中保和〔会長〕、梅田和子、串田ゆか、乾昭彦、橋本明子〔欠席:阪口葉子〕
- ・校長：松本透
- ・事務局：森教頭〔事務局長〕、竹島事務長、笠松主席、新井教諭〔GL〕、吉田教諭〔SSH〕、竹中教諭三好教諭、辻教諭、秦教諭、辻本教諭、大山講師、尾野講師〔記録〕、森川〔記録／文責〕

### 【4】次第

- ①学校長挨拶
- ②協議・報告
  - (1)「平成 30 年度学校評価と平成 31 年度学校経営計画」について
  - (2)「平成 30 年度 畷高アンケート(学校教育自己診断)集計結果」について
  - (3)「平成 30 年度 進路状況」について
  - (4)「平成 30 年度 GL 部活動報告」について
- ③協議「本年度の取り組みの評価と来年度の改善に向けて」
- ④その他

### 【5】議事・報告要旨（〈〉内は報告者）

#### 1. 「平成 30 年度学校評価と平成 31 年度学校経営計画」について〈校長〉

##### (1) 「平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価」

別紙「平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価」に基づき、第 2 回の報告から追記された部分を中心に報告。

##### ①学校教育自己診断の結果と分析について

- ・(1)「学校の満足度」は全体として高い結果。
- ・(2)生徒の授業満足度は昨年から伸びている。半面、教員の超過勤務は増加。授業準備に時間を要している。記述欄の数値「94%」が表中の数値と一致していないので、内容を精査の上、必要であれば修正しておく。

- ・(3)「担任以外にも～先生がいる」の生徒肯定率〔誤〕66.1%→〔正〕73.5%へ要修正。合わせて記述文中の数値も〔誤〕66.1%→〔正〕73.5%へ要修正。生活・進路面の悩み相談について、担任外の先生への相談が改善している。全体として悪い数値ではないが、更に改善を目指したい。
- ・(4)学校行事についても例年同様、高い数値が出ている。
- ・(5)課題研究・国際交流について、教員の「課題研究の取組み」が大きく改善している。
- ・(6)プライバシー、人権尊重の取組みについては教員の評価が低いことが気掛かりである。

#### ②学校運営協議会からの意見について

- ・前回議事録内容からダイジェストで追記を行っている。

#### ③本年度の取組内容及び自己評価

自己評価欄で数値が確定した部分を追記。自己診断は、目標を「上回った＝◎」「目標通り＝○」「下回った＝△」で表示。

- ・研究授業は、主席を中心に取組みを強化。改善している。
- ・AL 実施率は悪い数値ではないが未達成。AL 事例集作成は未作成。ICT 機器活用は進んでいる。
- ・「e ポートフォリオ」は大学側の活用が見えないので実施しない。ただ、紙ポートフォリオを積み上げ、国公立の AO 入試でも成果を上げており、いつでも対応できる。
- ・課題研究の肯定率は目標の 80%には届かず。強化していきたい。
- ・質問対応はよく対応しており、高い水準を維持している。
- ・去年を上回る 13 種目で近畿大会以上へ出場。
- ・アウトプット活動は増加。入賞については昨年並み。
- ・新たな取組として GTEC を実際。1 月 Speaking の受験結果はまだ出ていない。
- ・教員の「教育活動全般の評価と検証」が大きく目標を下回った。原因分析はまだ出来ていない。
- ・全校一斉退庁日が実行できなケースはむしろ増加。働き改革の為には仕事の削減が必要。見直しを行っていく。
- ・研修の肯定率は極めて高い。
- ・学校説明会参加人数は、台風等の影響で数値は減った。
- ・HP は保護者をターゲットに、更新を鋭意行った。
- ・「支援・配慮」に関する教員の肯定感が低い。きっちりと教員の評価の推移を見ていきたい。
- ・四條畷市との連携は GL 部の活躍により取組みが一番進んだ項目。

#### (2)「平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価」

別紙「平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価」「平成 30 年度 グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート」に基づき報告。

- ・目標数値の修正や実績の追記等は若干あるが、中期目標なので基本的には変更しない。大きな変更必要事項がなければ、ぶれることなく来年度も進めていく。
- ・「平成 30 年度 グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 評価シート」の詳細は割愛する。目立った点としてはセンター試験の 5 教科 7 科目型の受験率・得点率が大きく改善。

2. 「平成 30 年度 暇高アンケート(学校教育自己診断)集計結果」について〈笠松主席〉  
別紙「平成 30 年度 暇高アンケート(学校教育自己診断)集計結果」に基づき報告。

(1) 生徒解答項目

①高評価の項目

全体として高い評価が多かったが、特に評価が高かったのは以下項目。

- ・「生徒の発表の機会」では、新取組として三者懇談の際に生徒が保護者に対して、1年間の成果と進路に関するプレゼンを実施。
- ・「国際交流」はオーストラリア、台湾からの来校の影響があったと考えられる。
- ・「課題研究の取組」は特に2年生で改善。GL部が出来て日が浅いが少しずつ形になりつつある。

②低評価の項目

- ・清掃状態について、毎年問題になっているトイレの匂いが特に悪化。事務での対応や生徒の清掃活動指導も努力しているが限界もある。
- ・環境問題への取組

(2) 保護者解答項目

①高評価の項目

- ・「メルマガ暇」の利用率がアップ。地震や大雨への対応の際には役立った。

②低評価の項目

- ・「授業が分かり易く充実していると言っているか」について、生徒からの評価は高いが、保護者からは低い。家庭でも分かり易いと言ってもらえる授業を目指す。

3. 「平成 30 年度 進路状況」について〈笠松主席〉

別紙「過去3年間の推薦入学試験試験結果」に基づき報告。

①私立学校指定校推薦

- ・今年度は9名が合格。

②国公立大学推薦

- ・特色入試が増加。今年度は新たに神戸大学が実施し、本校では農学部2名が合格)。
- ・大阪大学では理学部・工学部で合格。課題研究成果を活かして合格している。
- ・京都大学では医・人間健康で合格。ベトナム研修の成果がアピールできたと考えている。

4. GL部の活動について〈新井教諭〉

(1) 国際交流事業について

別紙「平成30年度四條暇高校国際交流事業」に基づき、12月以降今実施分の要点を報告。

- ・①ベトナム医療ボランティアツアーでは折り鶴を折って患者へ届ける活動を生徒が考案し、実施。
- ・②台湾松山高級中学生の来校では、初めて国語科で漢字をテーマに授業を行い、好評。

- ・⑤GTEC は 1, 2 年生全員が同じ試験を受験。Speaking 以外の結果は生徒に返却している。
- ・⑥英検団体受験では第 3 回の二次試験の結果待ち。

## (2) グローバルリーダーズ事業について

別紙「平成 30 年度四條畷高校グローバルリーダーズ(GL)部」「NAWATE SPIRAL」に基づき、12 月以降今実施分の要点を報告。

### ① 1・2 年課題研究活動について

- ・課題研究論文は図書館で完成品を格納。後輩が参照しやすいように、閲覧環境を整えていく。
- ・課題研究活動の外部発表では「高齢者による自動車事故を減らす」が文系代表となり、10 校合同発表に参加。
- ・課題研究活動と四條畷市とをつなげる活動が増加。ネットテレビ「なわちゃん」で活動の幾つかが放送される予定。中でも四條畷市のプロモーションビデオを製作することに。
- ・1 年探求チャレンジでは、2 年生時のテーマ決めの最中。尖った理系人材を育成することを目標に、「SS 探求」グループ対象者を 58 名選出。

### ② その他の GL 部活動について

- ・「サンタクライス」がお店で提供されることに。2 年生以降へ引き継ぎ、次世代を育てたい。
- ・「NAWATE SPIRAL」で 2 年生の声を拾う。自分の課題研究に価値がない等、ネガティブに感じている生徒がいたことは反省材料だが、全体としてはポジティブな意見が多く、後輩へのメッセージも一生懸命に書かれていた。

### ③ 2018 年度を振り返っての課題

- ・成果発表会で発表時間・質疑応答時間を守るための工夫があればアドバイスをお願いしたい。
- ・付き添い・授業外指導の負担が教員にとって大きい。アドバイスがあればお願いしたい。

## (3) SSH 活動について〈吉田教諭〉

別紙「今年度の SSH 活動まとめ 次年度実施計画」に基づき、12 月以降今実施分の要点を報告。

### ① 課題設定科目（課題研究活動）について

- ・全員が取り組みを行う探求チャレンジ I II III は、裾野を広げる取り組み。
- ・全校体制に向けて、「担任/副担任での指導」「共通教材」「授業中の担当者会議」「教員用マニュアル整備」「探求 NAVI」「NAWATE SPIRAL」「科学者・技術者講演会」等の取り組みを行う。
- ・学びを深める取り組みとして、「ポートフォリオ」「1 分間スピーチでの振り返り」「各種発表機会設定と相互評価」「科学者・技術者講演会」等の取り組みを行う。
- ・次年度に向けた取り組みとして、「指導人材育成（マニュアル・勉強会・外部連携）」「SS 探求の新設」「3 年継続班の支援」等を行っていく。

### ② 高大連携（外部連携）について

- ・大学の研究室訪問は近畿圏に限定せず、広く宿泊を伴った研究室訪問（東大・九大等）を実施。
- ・卒業生を「学生 TA」として迎え、生徒の学びを支援。
- ・学び・経験を共有するための取り組みとして、「学年全体講演会」「化学グランプリ」を実施。

- ・次年度に向けた取り組みとして、「進路指導との関連付強化」による AO 推薦入試での合格者増加を目指す。また、「外部連携強化」を目指し、大学等の外部人材との連携を更に図る。

#### ③インプット・アウトプット活動について

- ・様々な研修・見学・発表の機会を確保し、インプット・アウトプットを積極的に実施。
- ・次年度に向けた取り組みとして、「既存の取り組みの整理整頓」「連絡・共有方法の見直し」「管掌教員人数の拡充（8→10名）」を行う。

#### ④国際性について

- ・サイエンスイングリッシュでは大学院の留学生を招き、オールイングリッシュでの実験・発表や他校でのポスター発表を英語で行った。
- ・次年度に向けた取り組みとして、英語による発表会への積極参加を継続し、ポスター発表のみならず、オーラル発表にも取り組む。また、海外での発表会参加としてシンガポールの「Global Link Singapore」への参加を予定している。

#### ⑤探求ラボについて

- ・探求ラボは卓越した資質・能力（トップ人材）育成を目指すもの。
- ・週1回、PPTによる進捗発表を欠かさず実施。
- ・大阪サイエンスデイでの優秀賞をはじめ、発表会での受賞。
- ・ロゴや名刺の作成、サイエンスカフェ等、面白いことをやろうの精神で活動。
- ・中学生向け実験講座や学校説明会でのプレゼン等、生徒自らがコンテンツを作成。
- ・次年度に向けた取り組みとして、ラボと授業の研究テーマを統一することでラボ参加の生徒の負担を軽減し、両立を図っていくと共に、2名体制での顧問体制を継続していく。

#### ⑥成果の見える化について

- ・「HPの刷新」「ブログ開設」「報告書のアップ」等を実施し、生徒・教員・保護者向けに発信。
- ・次年度に向け、他校への発表案内やSSH関連教材の開発とHPでの公開を検討する。

#### ⑦情報発信について

- ・情報収集（他校視察）を、職員会議でのPPT発表で発信し、校内での理解に繋げた。
- ・次年度に向けた取り組みとして、校内・校外両方への発信を充実すると共に、教員自身が「課題研究」に取り組み、生徒・教員が共に成長し続ける学校を目指す。

### 【6】委員からの質疑事項（「→」は回答）

議事・報告事項について、以下の質疑応答および意見交換を実施した。

- ・[委員]「支援・配慮」に関する肯定率が低いが必要支援生徒が沢山いるのか？  
→ [校長] 他校比較は行っていないが、比較的少ないと認識。数値を受け止めて改善していきたい。
- [委員]「合理的配慮」を念頭に、学校で対応出来ること、出来ないことを分けて考えて行く必要がある。行政の支援が必要な部分は行政に任せ、できる範囲で取り組んでほしい。
- [校長] 学校だけで抱え込むことがないように進めたい。

- ・〔委員〕「生徒への支援・配慮」の診断結果が気になる。簡単な問題ではない。0にするのは困難だろうが、今後も教員一人一人が配慮せねば、との気持ちを持っていて欲しい。
- ・〔委員〕「平成 31 年度学校経営計画」>「2 中期的目標」>「3 学校力・教員力の向上」の最初の項目の表題がないが？
- 〔校長〕「機動力のある組織体制づくり」がミスで抜けている。修正しておく。
- ・〔委員〕自己診断で 90%を超えるのは素晴らしい。その要因があれば教えてほしい。
- 〔校長〕一重に生徒に寄り添った指導と生徒の姿勢によると考えており、生徒の自己肯定感の高さがあるからこそだと考えている。
- ・〔委員〕授業について、「やらされ感」がない授業はどうやって実現しているのか？またついていけない生徒はいないのか？
- 〔校長〕授業で一番大事なのは発問。良い発問ができているからだと考える。補習・小テストの徹底により消化不良になっていないかを確認している。授業に参加している限りはしっかり進級して欲しいと考えており、生徒に寄り添ったフォローを続けていく。
- ・〔委員〕4 月からの働き改革もある中、教員も体を壊さないように頑張ってもらいたい。
- ・〔委員〕推薦入試が増えることで教員の負担が増えるだろうから、更なる効率化を期待したい。
- ・〔委員〕仕事が過重にならないよう、仕事の整理をしっかりと行い、止めることはやめて集中して取り組んでほしい。
- ・〔委員〕働き方改革は教員だけに限らない。PTA についても今年度は活動が活発であったが、シンプルに効率的に運営していかねばならない。
- ・〔委員〕トイレについての意見が例年より強く出ているのは気になる。綺麗になると雰囲気改善に資することもあるので、府へ改善要望を出しておいてはどうか？
- 〔校長〕改修は予算の許す範囲で少しずつ進めている。今年は台風・地震の補修のこともあり、特に金銭的に厳しかった。日々のメンテナンスも含め、喫緊の課題として取り組んでいきたい。
- ・〔委員〕研究発表は大変印象に残る内容で良かった。その際の時間対策だが、根本的により長い時間を確保する必要があると思う。提案として、発表の合間にトイレ休憩等があってもよい。また質疑において発表者と質問者を繋ぐ人がいるとよりスムーズになるのでは？と考える。課題研究が大学入試の結果につながるような軌跡がこれからも増えてほしい。
- ・〔委員〕自習時間を増やす為に、例えば学年集会で呼び掛ける等、生徒の気持ちを受験へ切り替える取り組みが必要かもしれない。
- ・〔委員〕課題研究の成果を上げるために、生徒へ要求するレベルをルーブリック化し、中間発表時に相互評価させてはどうか？
- ・〔委員〕教員の評価より生徒の評価がこれだけ高いのは、よく生徒が分かってくれているから。
- ・〔委員〕AL について若干ながら数値が低下。人権を尊重した教育についても改善はしているが半分以下の肯定率に留まっている。原因究明はこれからとの事だが、数値ではなく原因・実態をよく確認して具体的な改善策立案に活かしてほしい。

・〔委員〕 教員の評価全般が低いのは、教員が自分を厳しく評価しているということか？

→〔校長〕 風通しの良い学校がまだまだ実現できていないことも一因だと考える。いろいろな所で議論の場を増やしていく必要があると考えている。

#### 【7】 議事の承認と事後処理について

本日の報告・協議事項について委員の承認を確認。

資料は指摘のあった事項を訂正した後、3月末に教育委員会へ提出の上、HP上に公開を行う。

以上

#### 【提出資料】

- ・「大阪府立四條畷高等学校 平成30年度 第3回学校運営協議会」次第
- ・「平成30年度第3回学校運営協議会 配席図」
- ・「平成30年度 学校経営計画及び学校評価」
- ・「平成31年度 学校経営計画及び学校評価」
- ・「平成30年度 グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート」
- ・「畷高アンケート（学校教育自己診断）集計結果」
- ・「過去3年間の推薦入学試験試験結果」
- ・「平成30年度 四條畷高等学校 国際交流事業」
- ・「平成30年度 四條畷高校 グローバルリーダーズ(GL)部」
- ・「NAWATE SPIRAL」
- ・「今年度のSSH活動まとめ 次年度実施計画」
- ・「大阪府立四條畷高等学校 平成30年度 第2回学校運営協議会 議事録」